様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１、Ｚ－１９　（共通）

科学研究費助成事業　　研究成果報告書

令和　５ 年　９ 月 １４ 日現在

機関番号：１４３０１
研究種目：基盤研究(S)
研究期間：2016～2020
課題番号：１６Ｈ０６３２０

研究課題名（和文）人種化のプロセスとメカニズムに関する複合的研究

研究課題名（英文）Integrated Research into the Processes and Mechanisms of Racialization

研究代表者
竹沢　泰子（TAKEZAWA, Yasuko）

京都大学・人文科学研究所・教授

研究者番号：７０２２７０１５

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費）　116,100,000円

研究成果の概要（和文）：環大西洋圏の奴隷貿易や先住民支配とは異なる、日欧それぞれに前近代から存在する、したがって身体的に不可視の集団（被差別部落やユダヤ人等）も含め、人種化のプロセスとメカニズムの解明を手がけた。また環大西洋型とアジア型が重層的に交錯する環太平洋圏の移動と人種に関する議論を、越境と転換をキーワードにして展開した。
他にも、現在深刻な倫理問題を生み出しているDTC（直販型）遺伝子検査ビジネスに焦点を当て、祖先の人種・集団の同定や生まれつきの才能の同定を謳う検査についての国際共同研究や、アートにみられる越境移民やマイノリティの人々の間の遭遇と連帯、新しいアートの創造に関する国際共同研究をおこなった。

研究成果の学術的意義や社会的意義
本研究の最大の学術的意義は、従来の人種研究パラダイムに欠落していた環太平洋型枠組みを、日本主導による国際共同研究や代表者による研究によって次々と国際発信したことにある。一連の成果は、日本、アメリカ、イギリス、フランスにおいて学術書、学術雑誌特別号等で発表し、特に研究代表者の著作が引用されたり、研究代表者が海外機関から多くの招待講演を依頼されるなど、一定の影響をもたらした。また、高校生対象を含め数多くのシンポジウム・セミナー等を毎年開催することで社会還元にも努めた。さらに有力紙に掲載された人種や人種差別をめぐる研究代表者へのインタビュー記事、研究代表者による寄稿などには、大きな反響があった。

研究成果の概要（英文）：We analyzed the processes and mechanisms of racialization of marginalized groups, including those groups that have existed since pre-modern times in Japan and Europe.
We paid a particular attention to those groups who are phenotypically invisible (e.g., the dispossessed, Jews), as distinct from Blacks and Indigenous peoples who were racialized due to the slave trade and indigenous domination in the Transatlantic. We also developed an analytical framework on race and migration in the Transpacific.
One of our other projects focused on the DTC (direct-to-consumer) genetic testing businesses, including those that claim to identify ancestral races and groups. We also studied encounters and solidarity among artists with transmigrant and minority backgrounds in the Transpacific, and explored what forms of new art have been generated by these encounters and alliances.

研究分野：文化人類学

キーワード：人種　人種主義　反人種主義　環太平洋　人種差別　可視性と不可視性　アジア　日本

※科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属します。

１．研究開始当初の背景

欧米における人種研究には膨大な蓄積があるが、それらは概して、欧米の国内外植民地経験に基づいているため、環大西洋地域（北米、中南米、欧州、アフリカなど）中心の枠組みに偏重している。従来のパラダイムでは、「人種は近代ヨーロッパが構築したもの」とする見方が定説となっているが、それは、奴隷制や先住民支配といった、大陸間移動に伴う異集団間の接触により人種化が生じたケースを念頭に構築されたものであり、ゆえに皮膚色などの可視的な身体的差異を前提視してきたことが指摘されている。

それに対して本研究では、ヨーロッパ内やアジア内など同一地域内において、「生まれながら」の特徴をもつとして歴史的に差別を受けてきた集団（ユダヤ人やロマ、被差別部落、在日コリアンなど）の経験に基づく視点を積極的に取り入れ、人種化のプロセスとメカニズムを明らかにすることを目的とする。また日本社会では、ヘイトスピーチに象徴されるように、人種差別問題は喫緊の課題となっている。代表者らの関心は、現代の社会現象を意識しながら、基礎的人文社会科学を中心に据えた学術的人種研究にある。

人間はどのように人を分類し、名指し、差別を生み出すのか。本研究は、文化人類学が取り組んできた人間に関する大きな問いに迫るものであり、その研究成果が現実の人種差別やジェンダー差別等、関連する差別のメカニズムの理解に貢献するものである。

２．研究の目的

本研究は、従来の欧米中心的な人種理論のパラダイムから脱却するために、日本・アジアの事例と欧米や他地域の事例とを接合させることにより、「人種化」（“racialization”）のプロセスとメカニズム、特にその生成・連鎖・転換を明らかにすることを目的とする。またトランスパシフィック（環太平洋）の空間における人種化に注目する。具体的には、歴史班・社会班・科学班の相互連携によって国際的にも未着手の以下の 3 課題に取り組む。

（原理論）：人種主義の生成メカニズムに関するパラダイム再構築
（歴史論）：日本・アジアに見られる人種・人種主義の連鎖と意味転換
（実践論）：ゲノム研究・薬学等の実験・ラベリング検証と改善に向けての提言

３．研究の方法

本研究計画の重点は、代表者のオリジナルな着想を国際共同研究と分野横断研究によりさらに発展させ、かつ国際発信を積極的に行うことにある。具体的には、国内ベースで代表者・分担者・特定助教・研究員・連携研究者・研究協力者らで構成される共同研究会を活発に行い、かつこれらの研究者による現地調査・資料収集・実験等を進め、事例のデータを蓄積する。見いだされた発見や課題は、専門分野・領域を越境して研究会で共有する。さらにすでに代表者や分担者らが築いている海外の研究機関・研究者とのネットワークを活用し、国内海外双方で国際共同研究を推進する。専用の HP の開設・更新、日英文による学術書刊行、国際雑誌投稿も期間内に行う。

４．研究成果

本研究課題による研究成果は、日本語だけではなく、英語やフランス語によってもトップレベルの出版社や雑誌から多数発表した。著名な海外の共同研究者らと編んだ論文集・学術雑誌特集号に関しては、すべて研究代表者が筆頭編者を務めている。これは日本の人文学・社会科学の分野における国際共同研究の成果としては、極めて稀なことである。それはすなわち、主たるアイデアが代表者によるものであり、これらの著名な人種研究者らが代表者の学問的主張を受け入れたこと、代表者がリーダーシップをとり、出版を実現させたことを意味する。応募時に記載した、「日本・アジアの視点を積極的に組み入れたパラダイムの再構築」は、世界的に見れば人数的にはごく一部であったにせよ、それらの研究者らには受け入れられたと言っても過言ではなく、今後の波及効果も期待できる。実際、研究代表者は、今期の科研(S)の研究期間内に、アメリカの諸大学のみならず、国連、メキシコ、韓国、アイルランド、スウェーデン、フランス、オーストリアの大学・研究機関による招待講演を行った。また期間中に、フランス、ドイツ、イギリス、スウェーデン、アメリカ、カナダの諸大学から招聘講演や招聘授業の依頼を受けた（2023 年度、2024 年度実施予定）（2023 年 5 月末までの実施分については代表者のホームページに掲載）。

(1) 原理論：同一地域内の「見えない人種」に対する人種主義の生成メカニズム

応募時に上記 1. 原理論として記載した「同一地域内の「見えない人種」に対する人種主

義」の生成メカニズムをめぐっては、代表者の論文のほか、原理班と歴史班が連携し、かつそれをさらに国際共同研究に発展させることにより、日本、韓国、ヨーロッパ、北米、東南アジア、南アジア、オーストラリア等の研究者による数々の論考が生み出された。

その先陣を切った代表者（竹沢）による“Racialization and Discourses of Privileges' in the Middle Ages: Jews, 'Gypsies,' and Kawaramono”（*Ethnic and Racial Studies* 2020 所収）および（日本語長編版）「中世におけるユダヤ人・「ジプシー」・河原者をめぐる「特権」言説」（『部落解放研究』2020 年所収）では、スペインのユダヤ人、ルーマニアの「ジプシー」（当時の呼称）、近畿の河原者の人種化・周縁化に著しい 8 つの類似点が見受けられることを指摘した。特に重要なのは、穢れ視や農耕社会における移動民・移住者により、主流社会では敬遠される職業に従事し、その結果独占状態となり、他方、王族や領主などの権力者には、必要不可欠な資源とスキルを提供する存在であったため、庇護や税・兵役等の免除を受けるなど、一般市民から嫉妬を受け、それがしばしば迫害を招いたというプロセスを、実証的に明らかにした。その上で、人種が近代の構築物でも西洋の構築物でもなく、ある一定の社会的経済的等の条件が揃えば、同一地域内において（すなわち身体的に不可視の集団に対して）人種化が発生すると主張する、もう一つの人種化のメカニズムを提示した。ERS の査読者からは「本人が主張する以上の、より広い意味合いをもつもの」、また『部落解放研究』の査読者からも、「部落差別の起源に迫るもの」とする評価を受けた。また 2023 年 3 月に中央ヨーロッパ大学（CEU）にて行った講演は、この論文を読んだロマ研究者による招待であった。

このほか、代表者が責任編集を務めた 3 巻本シリーズの第 1 巻『人種神話を解体する　I. 可視性と不可視性のはざまで』（東京大学出版会、2016 年）でも、韓国の白丁やアメリカの一滴の黒人、ロマ、首都圏のアイヌ、被差別部落の映画表象などを扱い、代表者による「試論」では、身体的形質の可視性と不可視性の共通点と相違点を提示した。

さらに、代表者による 516 頁に及ぶ単著『アメリカの人種主義――カテゴリー／アイデンティティの形成と転換』（名古屋大学出版会、2023 年 2 月）では、日系・アジア系・黒人（アフリカ系）・先住アメリカ人を中心に取り上げ、当初アメリカの植民地時代は、宗教や出身国など肌の色以外の要素が大半の植民地における自己他者の識別要素であったにもかかわらず、相次ぐ反乱を鎮圧し白人と黒人の労働者／半奴隷の連帯を分断するために肌の色を用いたこと、明治日本は「文明の度」によって欧米と比肩すると自負していたものの、アメリカでの日本人移民排斥によって人種の違いが決定的な差異と認識されるに至ったことなどを、時代（時間軸）と地域（空間軸）を比較しながら、転換するプロセスとメカニズムを明らかにした。ちなみに同書は、『朝日新聞』の書評欄において大きく取り上げられ、『東京新聞』でも書評された（ともに 2023 年 4 月 8 日付）。

（2）歴史論：日本・アジアに見られる人種・人種主義の連鎖と意味転換

応募時に上記 2．歴史論として記載した「日本・アジアに見られる人種・人種主義の連鎖と意味転換」からは、3 つの群の研究成果が生まれた。一つはフランス国立社会科学高等研究院（EHESS）との共同研究であり、その成果は、『人文学報　特集号：人種主義と反人種主義〜越境と転換』（2019）、EHESS のオンライン雑誌 *POLITIKA* に特集号として掲載された *Circulations et Métamorphses du Racism et de L'antiracisme*（仏語・英語 2020）、くわえて学術書『人種主義と反人種主義――越境と転換』（京都大学学術出版会、2022 年）である。特に後者の共編著では、各部の後に設けた Dialogue のコーナーにおいて、双方の共通点と相違点をより明確に確認することができた。同書では、日本・アジアの事例をヨーロッパ諸地域の事例と接合させ、バスク地方のユダヤ人に対する人種化や、ヨーロッパから日本へと越境し・転換した人種主義的な「学知」を被差別部落に当てはめ、社会改良政策に援用した事例、欧米より日本に導入された人種概念の越境と転換、直販型遺伝子検査（DTC）ビジネスに関する論考などが含まれている。

第二の群の研究成果は、『環太平洋地域における移動と人種』（京都大学学術出版会、2020 年）、*Race and Migration in the Transpacific*（Routledge, 2023.1）である。英語版の序論は、竹沢と田辺によるもので、日本語版の序論を大幅に修正し、より明確にトランスパシフィック型の人種化のプロセスの特徴を打ち出した。すなわち、環大西洋型の人種化と日本・アジア型の人種化がアメリカ西海岸や日本の北海道などで遭遇し、重層的に絡み合うことで、環太平洋型とも言える人種化パターンを展開することを論じた。例えば、アメリカ西海岸における日系人社会の中で差別を受けた被差別部落移民などは、白人中心社会の中で身体形質が可視的な日系人社会の中で身体的に不可視であるがゆえに、日系指導者や日系社会から彼らの存在を隠そうと、差別や抑圧を受けるさまを描くことに成功している。

第三の研究成果群は、芸術批評研究者やアーティストらと行ったトランスパシフィック日系ディアスポラのアートに関する国際共同研究の成果である。ブラジル・韓国・アメリカ本土・ハワイ・沖縄・日本本土にルーツあるいは活動拠点を持つアーティストらが、他の越境移民やマイノリティらとの共感や連帯としての「マイナー・トランスナショナリズム」から啓発され生み出したアートに注目し、それらのライフヒストリーやアイデンティティについて考察した論考を集めた。それらの成果は、カリフォルニア大学ロサンゼルス校（UCLA）の機関紙 *Amerasia* において東京で行ったシンポジウムをもとにフォーラムとして掲載し、

またアート雑誌 *Asian Diasporic Visual Cultures and the Americas (ADVA)*に特集号 *Special Issue: Trans-Pacific Minor Visions in Japanese Diasporic Art. Asian Diasporic Visual Cultures and the Americas (ADVA)*として発表した（ともに 2020）。

（3）実践論：ゲノム研究・薬学等の実験・ラベリング検証と改善に向けての提言

応募時に上記 3．実践論として記載した「ゲノム研究・薬学等の実験・ラベリング検証と改善に向けての提言」は、研究開始後、ゲストを招くなど研究会を重ねた結果、最も喫緊の課題であると判断した直販型遺伝子検査ビジネスに焦点を定めることにした。欧米や南米などでは、祖先の帰属集団（例：「ヨーロッパ人」「アフリカ人」「アジア人」またはより詳細に「アイルランド人」「ケニア人」など）を知るツールとして大人気を博しているが、その結果は必ずしも正確であるとは言えず、それどころか人種主義的な思考を強化する働きが見られる。一方日本では、インターネット注文により簡単に入手できる遺伝子検査を用い、妊婦が胎児の父親を同定しようとしたり、父親が子どもとの血縁関係を調べようとしたりするなど、法的規制がないまま倫理的に深刻な問題が生じている。また「祖先ルーツ」の同定を謳う商品は、母系のみに伝えられるミトコンドリア DNA を用いる場合がほとんどであり、統計学的に意味のない「祖先」集団を「マンモス・ハンター」や「お米大好きの祖先」など購買者に誤解を招きかねない表現で購買を煽っている。本研究課題の DTC に関する成果は、*Anthropological Science* の特集号 *Genetics, DTC, and Their Social Implications*（2023.1）、および前述の『人種主義と反人種主義――越境と転換』の第 V 部「遺伝的祖先と人種の解体／再生」として発表した。例えば、Nagai et al.（代表者 Takezawa は理系論文では重要な位置を占めるラストオーサー）では、国際共同研究によって、英語圏・中国語圏・日本語圏の DTC 販売のホームページを分析し、英語圏では祖先ルーツの割り出し、中国語圏では子どもの才能や運動能力等、日本語圏では、美容、健康、ウェルビーイングなどが主な部分を占めることを統計的に示した。

（4）社会還元

さらに本プロジェクトでは、社会還元も積極的に行った。数々の公開シンポジウム、セミナーの中でも、特筆すべきは、以下の 3 つのイベントである。①代表者らが企画した「緊急リレートーク「ブラック・ライブズ・マター運動の背景と課題」（2020.6.21 オンライン、その後代表者の HP で公開中、現在までに 1.7 万回再生）；②代表者と海部陽介氏が企画した日本学術会議との共催シンポジウム「with コロナの時代に考える人間の「ちがい」と差別」（2020.10.11 視聴者 700 名以上（登録者数 1000 名以上、その後代表者の HP で公開中、視聴者数未知数））；③代表者と海部陽介氏が企画した高校生を主たる対象とした日本学術会議との共催シンポジウム「人類学者と語る人間の「ちがい」と差別」（ハイブリッド開催 2022.11.18）である。人間の「ちがい」に関する 2 つのシンポジウムの直後に実施したアンケートでは、双方ともに極めて高い評価を得た。

代表者は、いくつかの主要新聞などに寄稿、インタビュー記事が掲載され、NHK や BBC などのオンライン記事でもインタビュー記事が引用されている。このプロジェクト期間だけでもその数は 20 に上る。

以上のように、当初予想した研究成果をはるかに超える成果を国内外で影響力のある媒体で発表することができた。

５．主な発表論文等

〔雑誌論文〕　計49件（うち査読付論文　27件／うち国際共著　15件／うちオープンアクセス　23件）

１．著者名 TAKEZAWA YASUKO	４．巻 131
２．論文標題 Preface to the Special Issue on Genetics, DTC, and Their Social Implications	５．発行年 2023年
３．雑誌名 Anthropological Science	６．最初と最後の頁 1～2
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.1537/ase.221214	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

１．著者名 NAGAI KENTARO、TANAKA MIKIHITO、MARCON ALESSANDRO R.、SHINEHA RYUMA、TOKUNAGA KATSUSHI、CAULFIELD TIMOTHY、TAKEZAWA YASUKO	４．巻 131
２．論文標題 Comparing direct-to-consumer genetic testing services in English, Japanese, and Chinese websites	５．発行年 2023年
３．雑誌名 Anthropological Science	６．最初と最後の頁 3～13
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.1537/ase.220905	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 該当する

１．著者名 竹沢泰子	４．巻 28
２．論文標題 移民研究の可能性：トランスパシフィック研究の視点から	５．発行年 2022年
３．雑誌名 移民研究年報	６．最初と最後の頁 99-102
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

１．著者名 Takezawa Yasuko、Small Stephen	４．巻 11
２．論文標題 Theorizing People of Mixed Race in the Pacific and the Atlantic	５．発行年 2022年
３．雑誌名 Social Sciences	６．最初と最後の頁 online
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.3390/socsci11030124	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 該当する

1．著者名 Yasuko Takezawa	4．巻 online
2．論文標題 Race et civilisation au Japon. Les manuels scolaires a l'ere Meiji	5．発行年 2021年
3．雑誌名 Politika	6．最初と最後の頁 online
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

1．著者名 竹沢泰子	4．巻 794
2．論文標題 アメリカ合衆国のセンサスー「人種」「エスニシティ」に関する最近の動向	5．発行年 2021年
3．雑誌名 地理	6．最初と最後の頁 40-46
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 Yasuko Takezawa	4．巻 43（16）
2．論文標題 Racialization and Discourses of “Privileges” in the Middle Ages: Jews, “Gypsies”, and Kawaramono	5．発行年 2020年
3．雑誌名 Ethnic and Racial Studies	6．最初と最後の頁 193-210
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.1080/01419870.2020.1745255	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

1．著者名 竹沢泰子	4．巻 213
2．論文標題 中世におけるユダヤ人・「ジプシー」・河原者をめぐる「特権」言説	5．発行年 2020年
3．雑誌名 部落解放研究	6．最初と最後の頁 116-149
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

１．著者名 Yasuko Takezawa, Laura Kina	４．巻 ４５巻３号
２．論文標題 Trans-Pacific Japanese Diaspora Art: Encounters and Envisions of Minor-Transnationalism	５．発行年 2020年
３．雑誌名 Amerasia Journal	６．最初と最後の頁 373-376
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.1080/00447471.2019.1721648	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

１．著者名 Yasuko Takezawa	４．巻 ４５巻３号
２．論文標題 Encounters with Transmigrants and a Navaho Chef: Yoko Inoue.	５．発行年 2020年
３．雑誌名 Amerasia Journal	６．最初と最後の頁 391-395
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.1080/00447471.2019.1721669	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

１．著者名 T. Katsumura*, S. Oda, H. Mitani, H. Oota*	４．巻 9 (1)
２．論文標題 Medaka population genome structure and demographic history described via genotyping-by-sequencing.	５．発行年 2019年
３．雑誌名 G3	６．最初と最後の頁 217-228
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.1534/g3.118.200779.	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

１．著者名 S. Mawaribuchi, K. Nakasako, K. Tamura, M. Matsuda, T. Katsumura, H. Oota, G. Watanabe, S. Yoneda, N. Takamatsu, M. Ito	４．巻 23 (1)
２．論文標題 Parallel evolution of the two dmrt1-derived genes dmy and dm-W for verterbrate sex determination	５．発行年 2019年
３．雑誌名 iSCIENCE	６．最初と最後の頁 1-24
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.1016/j.isci.2019.100757	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

１．著者名 Akio Tanabe	４．巻 online
２．論文標題 Antiracism and Spiritual Universalism: Japan, India, and the Development of Internationalism	５．発行年 2021年
３．雑誌名 Politika	６．最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

１．著者名 田辺明生	４．巻 第１１４号
２．論文標題 反人種差別と霊的普遍主義――日印ナショナリズムの交差と分岐	５．発行年 2020年
３．雑誌名 人文学報	６．最初と最後の頁 159-170
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

１．著者名 Akio Tanabe	４．巻 Vol.17(1)
２．論文標題 Genealogies of the “Paika Rebellion”: Heterogeneities and Linkages	５．発行年 2020年
３．雑誌名 International Journal of Asian Studies	６．最初と最後の頁 1-18
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

１．著者名 成田龍一	４．巻 764
２．論文標題 原爆・被曝を描く別役実、あるいは戦後表象空間のなかの別役実：『象』『マクシミリアン博士の微笑』をめぐって	５．発行年 2020年
３．雑誌名 ユリイカ 総特集　別役実の世界	６．最初と最後の頁 155-170
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

１．著者名 成田龍一	４．巻 ７４巻１１号
２．論文標題 方法としての「書き直し」・序説	５．発行年 2019年
３．雑誌名 群像	６．最初と最後の頁 84-148
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

１．著者名 成田龍一	４．巻 ９０７号
２．論文標題 「この３０年」をどのように見るのか	５．発行年 2020年
３．雑誌名 歴史地理教育	６．最初と最後の頁 94-101
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

１．著者名 西山隆行・竹沢泰子・貴堂嘉之	４．巻 54
２．論文標題 座談会 トランプと移民問題	５．発行年 2020年
３．雑誌名 アメリカ研究	６．最初と最後の頁 1-19
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

１．著者名 田中幹人	４．巻 ３７巻９号
２．論文標題 研究者はメディアとどう向き合うのか「科学のメディア化」の時代	５．発行年 2019年
３．雑誌名 実験医学	６．最初と最後の頁 1475-1479
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 Watanabe Y, Naka I, Khor SS, Sawai H, Hitomi Y, Tokunaga K, and Ohashi J.	4．巻 9
2．論文標題 Analysis of whole Y-chromosome sequences reveals the Japanese population history in the Jomon period	5．発行年 2019年
3．雑誌名 Scientific Reports	6．最初と最後の頁 1-8
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.1038/s41598-019-44473-z	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 該当する

1．著者名 Gakuhari Takashi, Nakagome Shigeki, Rasmussen Simon, ... and Oota Hiroki	4．巻 3
2．論文標題 Ancient Jomon genome sequence analysis sheds light on migration patterns of early East Asian populations	5．発行年 2020年
3．雑誌名 Communications Biology	6．最初と最後の頁 437
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.1038/s41598-019-44473-z	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 該当する

1．著者名 Ueta M, Nakamura R, Saito Y, Tokunaga K, Sotozono C, Yabe T, Aihara M, Matsunaga K, and Kinoshita S.	4．巻 6巻1号
2．論文標題 Association of HLA class I and II gene polymorphisms with acetaminophen-related Stevens-Johnson syndrome with severe ocular complications in Japanese individuals	5．発行年 2019年
3．雑誌名 Human Genome Variation	6．最初と最後の頁 1-6
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.1038/s41439-019-0082-6	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

1．著者名 Nakatani K, Ueta M, Khor SS, Hitomi Y, Okudaira Y, Masuya A, Wada Y, Sotozono C, Kinoshita S, Inoko H, and Tokunaga K.	4．巻 9
2．論文標題 Identification of HLA-A*02:06:01 as the primary disease susceptibility HLA allele in cold medicine-related Stevens-Johnson syndrome with severe ocular complications by high-resolution NGS-based HLA typing	5．発行年 2019年
3．雑誌名 Scientific Reports	6．最初と最後の頁 1-8
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.1038/s41598-019-44473-z	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 該当する

1．著者名 Wall J, Stawiski E, Ratan A, Tokunaga K, Peterson A, Tokunaga K, 他68人	4．巻 576
2．論文標題 The GenomeAsia 100K Project enables genetic discoveries across Asia	5．発行年 2019年
3．雑誌名 Nature	6．最初と最後の頁 106-111
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.1038/s41586-019-1793-z	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 該当する

1．著者名 Hashimoto S, Nakajima F, Imanishi T, Kawai Y, Kato K, Kimura T, Miyata S, Takanashi M, Nishio M, Tokunaga K, and Satake M.	4．巻 96
2．論文標題 Implications of HLA diversity among regions for bone marrow donor searches in Japan	5．発行年 2020年
3．雑誌名 HLA	6．最初と最後の頁 24-42
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.1111/tan.13881	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 該当する

1．著者名 河合洋介，徳永勝士	4．巻 １０巻　６号
2．論文標題 東アジアの人々のゲノム多様性	5．発行年 2019年
3．雑誌名 腎臓内科・泌尿器科	6．最初と最後の頁 561-565
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 竹沢泰子、ジャン＝フレデリック・ショブ	4．巻 114
2．論文標題 はじめに	5．発行年 2019年
3．雑誌名 人文学報　特集号：人種主義と反人種主義の越境と転換	6．最初と最後の頁 1-6
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 該当する

1．著者名 竹沢泰子	4．巻 114
2．論文標題 明治期の地理教科書にみる人種・種・民族	5．発行年 2019年
3．雑誌名 人文学報　特集号：人種主義と反人種主義の越境と転換	6．最初と最後の頁 205-238
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

1．著者名 Suvichapanich S, Fukunaga K, Zahroh H, Mushiroda T, Mahasirimongkol S, Toyo-Oka L, Chaikledkaew U, Jittikoon J, Yuliwulandari R, Yanai H, Wattanapokayakit S, and Tokunaga K	4．巻 28 (7)
2．論文標題 NAT2 ultra-slow acetylator and risk of anti-tuberculosis drug-induced liver injury: a genotype-based meta-analysis	5．発行年 2018年
3．雑誌名 Pharmacogenet Genomics	6．最初と最後の頁 167-176
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.1097/FPC.0000000000000339	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

1．著者名 K. Koganebuchi, T. Gakuhari, H. Takeshima, K. Sato, K. Fujii, T. Kumabe, S. Kasagi, T. Sato, A. Tajima, H. Shibata, M. Ogawa, H. Oota	4．巻 13 (7)
2．論文標題 A new targeted capture method using bacterial artificial chromosome (BAC) libraries as baits for sequencing relatively large genes	5．発行年 2018年
3．雑誌名 PLOS ONE	6．最初と最後の頁 1-14
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.1371/journal.pone.0200170	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

1．著者名 H. McColl, F. Racimo, H. Oota	4．巻 361 (6397)
2．論文標題 The prehistoric peopling of Southeast Asia	5．発行年 2018年
3．雑誌名 Science	6．最初と最後の頁 88-92
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.1126/science.aat3628	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 該当する

1．著者名 田辺明生	4．巻 83
2．論文標題 インド・オリッサ州におけるトライブとダリット-マイノリティ集団間関係を考える	5．発行年 2018年
3．雑誌名 マイノリティ研究会ニュース	6．最初と最後の頁 24-40
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 徳永勝士	4．巻 264(11)
2．論文標題 個人情報保護法改正に対応する研究倫理指針の改正	5．発行年 2018年
3．雑誌名 医学のあゆみ	6．最初と最後の頁 1004-1006
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 大前陽輔、徳永勝士	4．巻 266(5)
2．論文標題 ヒトゲノム全域の解析からみえてきた感染症の発症遺伝要因	5．発行年 2018年
3．雑誌名 医学のあゆみ	6．最初と最後の頁 466-472
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 Takezawa Yasuko	4．巻 119
2．論文標題 Antiracist Knowledge Production: Bridging Subdisciplines and Regions	5．発行年 2017年
3．雑誌名 American Anthropologist	6．最初と最後の頁 538～540
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 竹沢泰子	4．巻 82
2．論文標題 日本学術会議多文化共生分科会シンポジウム『地域社会における外国籍生徒　義務教育以降の問題』についての報告	5．発行年 2017年
3．雑誌名 文化人類学会	6．最初と最後の頁 397-399.
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 Yasuko Takezawa	4．巻 -
2．論文標題 Rethinking ‘Race’ from Asian Perspectives	5．発行年 2016年
3．雑誌名 Ethnicity as a Political Resource	6．最初と最後の頁 75-84
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

1．著者名 竹沢泰子	4．巻 -
2．論文標題 日系アメリカ人の強制収容と補償運動	5．発行年 2016年
3．雑誌名 メーレック・ブックレット	6．最初と最後の頁 54-56
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 田辺明生	4．巻 19
2．論文標題 多様性の公共的表現としての多元的デモクラシー　ポピュラー・ポリティクスについて日本がインドから学べること	5．発行年 2016年
3．雑誌名 アリーナ	6．最初と最後の頁 150-159
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 田辺明生	4．巻 218
2．論文標題 日印交流の未来　言語文化の多様性と普遍性	5．発行年 2017年
3．雑誌名 文学・語学	6．最初と最後の頁 45-55
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 田辺明生	4．巻 -
2．論文標題 Vernacular democracy and politics of relationships: A subalternate perspective on contemporary India	5．発行年 2017年
3．雑誌名 Rethinking Religion, Ethics, and Political Economy in India and Sri Lanka: Critical Perspectives from Japan	6．最初と最後の頁 39-51
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 Tanabe, A.	4．巻 -
2．論文標題 Islamicate Transculturation and Local Societies: Comparative Perspective on Thirteenth-Sixteenth Century South Asia and Southeast Asia	5．発行年 2017年
3．雑誌名 State Formation and Social Integration in Pre-modern South and Southeast Asia (ed. by N. Karashima and M. Hirosue)	6．最初と最後の頁 337-343
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 Tanabe, A.	4．巻 -
2．論文標題 Conditions of 'Developmental Democracy: New Logic of Inclusion and Exclusion in Globalizing India	5．発行年 2017年
3．雑誌名 Rethinking Social Exclusion in India: Castes, Communities and the State (ed. by M. Mio and A. Dasgupta)	6．最初と最後の頁 11-29
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

１．著者名 Tanabe, A.	４．巻 -
２．論文標題 Spirituality as the Source of Human Creativity: Insights from India	５．発行年 2018年
３．雑誌名 The Kyoto Manifesto for Global Economics: The Platform of Community, Humanity, and Spirituality (edited by Stomu Yamash’ta, Tadashi Yagi and Stephen Hill)	６．最初と最後の頁 179-193
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

１．著者名 田辺明生	４．巻 83
２．論文標題 インド・オリッサ州におけるトライブとダリット　マイノリティ集団間関係を考える	５．発行年 2018年
３．雑誌名 マイノリティ研究会ニュース	６．最初と最後の頁 24-40
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

１．著者名 田辺明生	４．巻 82(4)
２．論文標題 書評 坂野徹、竹沢泰子編　『人種神話を解体する２：科学と社会の知』	５．発行年 2018年
３．雑誌名 文化人類学	６．最初と最後の頁 595-598
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

１．著者名 Matsumae Hiromi、Ranacher Peter、Savage Patrick E.、Blasi Dami?n E.、Currie Thomas E.、Koganebuchi Kae、Nishida Nao、Sato Takehiro、Tanabe Hideyuki、Tajima Atsushi、Brown Steven、Stoneking Mark、Shimizu Kentaro K.、Oota Hiroki、Bickel Balthasar	４．巻 7
２．論文標題 Exploring correlations in genetic and cultural variation across language families in northeast Asia	５．発行年 2021年
３．雑誌名 Science Advances	６．最初と最後の頁 eabd9223
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 該当する

1．著者名 Matsumae Hiromi、Ranacher Peter、Savage Patrick E.、Blasi Dami?n E.、Currie Thomas E.、Koganebuchi Kae、Nishida Nao、Sato Takehiro、Tanabe Hideyuki、Tajima Atsushi、Brown Steven、Stoneking Mark、Shimizu Kentaro K.、Oota Hiroki、Bickel Balthasar	4．巻 7
2．論文標題 Exploring correlations in genetic and cultural variation across language families in northeast Asia	5．発行年 2021年
3．雑誌名 Science Advances	6．最初と最後の頁 eabd9223
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.1126/sciadv.abd9223	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 該当する

〔学会発表〕　計92件（うち招待講演　21件／うち国際学会　26件）

1．発表者名 Yasuko Takezawa
2．発表標題 The Similarities of Racialization among "Gypsies," Jews, and Burakumin in the Middle Ages
3．学会等名 Central European University（招待講演）（招待講演）
4．発表年 2023年

1．発表者名 竹沢泰子
2．発表標題 創られた「人種」「民族」が残したもの
3．学会等名 日本学術会議主催シンポジウム　「人類学者と語る人間の「ちがい」と差別」
4．発表年 2022年

1．発表者名 竹沢泰子
2．発表標題 「人種」と「文明」：明治期の教科書記述にみる世界認識の変容
3．学会等名 日仏共同研究 出版記念シンポジウム「人種主義と反人種主義　越境と転換」
4．発表年 2022年

１．発表者名 竹沢泰子
２．発表標題 遺伝子検査による祖先（ルーツ）検査とは
３．学会等名 日仏共同研究 出版記念シンポジウム「人種主義と反人種主義　越境と転換」
４．発表年 2022年

１．発表者名 竹沢泰子
２．発表標題 アメリカ合衆国における人種的ステレオタイプの過去と現在
３．学会等名 アメリカ学会第56回年次大会
４．発表年 2022年

１．発表者名 Yasuko Takezawa
２．発表標題 The Development of the Concept of Race in Japan
３．学会等名 University of Monterrey（招待講演）（招待講演）
４．発表年 2022年

１．発表者名 Yasuko Takezawa
２．発表標題 UNAI Digital Dialogue Series: Countering Racism through Education
３．学会等名 UN（国連）（招待講演）（招待講演）
４．発表年 2021年

１．発表者名 Yasuko Takezawa
２．発表標題 Unraveling and Connecting: Post-Identity in Asian American Art
３．学会等名 The 55th International Conference organized by The American Studies Association of Korea (ASAK)（招待講演）（招待講演）
４．発表年 2021年

１．発表者名 Yasuko Takezawa
２．発表標題 Pathways of World Anthropological Futures. Assessments and Prospects
３．学会等名 The Wenner-Gren Foundation for Anthropological Research（招待講演）（招待講演）
４．発表年 2021年

１．発表者名 竹沢泰子
２．発表標題 移民研究の可能性　トランスパシフィック研究の視点から
３．学会等名 日本移民学会　30周年記念シンポジウム（依頼講演）
４．発表年 2021年

１．発表者名 Monica Moreno Figueroa, Faisal Abualhassan, Mathias Moeschel, Yasuko Takezawa, Ann Morning
２．発表標題 Race in Global Perspective
３．学会等名 New York University Abu Dhabi（招待講演）（招待講演）
４．発表年 2021年

１．発表者名 竹沢泰子
２．発表標題 『環太平洋地域の移動と人種』を語る　序論と拙論から
３．学会等名 マイノリティ研究会
４．発表年 2021年

１．発表者名 竹沢泰子
２．発表標題 外国人の子どもの教育を受ける権利と就学の保障　公立高校の入口から出口まで
３．学会等名 日立財団　多文化共生社会の構築シンポジウム（招待講演）
４．発表年 2020年

１．発表者名 Yasuko Takezawa
２．発表標題 Social Perceptions and Academic Studies of Race and Racism in Japan
３．学会等名 UCLA Terasaki Center for Japanese Studies（招待講演）（招待講演）
４．発表年 2020年

１．発表者名 竹沢泰子
２．発表標題 BLM運動から考える身のまわりの人種差別
３．学会等名 日本学術会議公開シンポジウム「Withコロナの時代に考える人間の「ちがい」と差別　人類学からの提言」
４．発表年 2020年

１．発表者名 竹沢泰子
２．発表標題 ブラック・ライブズ・マター運動の背景と課題
３．学会等名 京都大学人文科学研究所・慶應義塾アメリカ学会　緊急リレートーク
４．発表年 2020年

１．発表者名 竹沢泰子
２．発表標題 「ブラック・ライブズ・マター運動」を考える
３．学会等名 イギリス大使館（招待講演）
４．発表年 2020年

１．発表者名 Yasuko Takezawa
２．発表標題 Migration and Xenophobia across the Pacific in the Time of COVID-19: Current Problems in their Historical Context
３．学会等名 UC Berkeley（招待講演）（招待講演）
４．発表年 2020年

１．発表者名 竹沢泰子
２．発表標題 「人種」と「人種主義」　ー人類学の視点から
３．学会等名 川崎市民アカデミー（招待講演）
４．発表年 2020年

１．発表者名 Yasuko Takezawa
２．発表標題 Jews, “Gypsies,” and Kawaramono (Burakumin) in Pre-modern Times: racialized hierarchies and inequality across vast geographical distances”
３．学会等名 イギリス社会学会年次大会（国際学会）（国際学会）
４．発表年 2019年

１．発表者名 Yasuko Takezawa
２．発表標題 Race and Radicalization from Pre-Modernity to Today: Juxtaposing Trans-Atlantic and Trans-Pacific Experiences
３．学会等名 ウプサラ大学（スウェーデン）（招待講演）（招待講演）
４．発表年 2019年

１．発表者名 Yasuko Takezawa
２．発表標題 Theorizing Mixed Race from the Japanese Perspective
３．学会等名 アイルランド国立大学ダブリン校（招待講演）（招待講演）
４．発表年 2019年

１．発表者名 竹沢泰子
２．発表標題 トランスパシフィックにおける「つながり」の芸術：ジーン・シンと井上葉子の作品から
３．学会等名 日本文化人類学会年次大会
４．発表年 2019年

１．発表者名 H. Oota
２．発表標題 Adaptation to cultural environments found in human genome diversity
３．学会等名 UTokyo Symposium 2019 “Crossing Boundaries: Migraation, Mediation, Morality”（招待講演）（国際学会）（招待講演）（国際学会）
４．発表年 2019年

１．発表者名 太田博樹
２．発表標題 古代ゲノムから見た東ユーラシア基層集団～アイヌ民族の位置を展望する～
３．学会等名 シンポジウム「考古学・人類学とアイヌ民族」（招待講演）（招待講演）
４．発表年 2019年

１．発表者名 太田博樹
２．発表標題 縄文人ゲノム解読への道のり
３．学会等名 東北メディカル･メガバンク　第18回ゲノム･オミックス連携推進セミナー（招待講演）（招待講演）
４．発表年 2019年

１．発表者名 太田博樹
２．発表標題 古代ゲノム解析からみた東アジア人類集団史/ Ancient genome analyses show peopling history of East Asians
３．学会等名 日本人類遺伝学会第64回大会　シンポジウム「現代日本人の遺伝的多様性」（招待講演）（招待講演）
４．発表年 2019年

１．発表者名 太田博樹
２．発表標題 遺伝学からの応答 Response from genetics ~ A genome study of population diversity in Mlabri
３．学会等名 一般公開シンポジウム「森の民ムラブリのいま・むかし」（招待講演）（招待講演）
４．発表年 2019年

１．発表者名 M. Motoi
２．発表標題 Changes in blood component and DNA methylation patterns in healthy men exposed hypobaric hypoxia (Poster)
３．学会等名 The 14th International Congress of physiological Anthropology（国際学会）（国際学会）
４．発表年 2019年

１．発表者名 T. Nishimaki
２．発表標題 The fine structural approach to clarify the pathophysiological mechanism of orthopedic diseases by analyzing the spinal excurved Medaka mutant, wavy (wy)
３．学会等名 The 19th Congress of the International Federation of Associations of Anatomists（国際学会）（国際学会）
４．発表年 2019年

１．発表者名 澤藤りかい
２．発表標題 アゼルバイジャンの古人骨ゲノム解析（予報）
３．学会等名 パレオアジア文化史学第7回研究大会
４．発表年 2019年

１．発表者名 H. Matsumae
２．発表標題 Understanding diversification of language comparing with human genetic history
３．学会等名 日本進化学会第21回大会
４．発表年 2019年

１．発表者名 渡辺裕介
２．発表標題 縄文人のHLA型推定
３．学会等名 第28回日本組織適合性学会
４．発表年 2019年

１．発表者名 和久大介
２．発表標題 千葉県・西広および祇園原貝塚出土縄文人骨の集団ゲノム解析（第一報）
３．学会等名 第73回日本人類学会大会
４．発表年 2019年

１．発表者名 今西規
２．発表標題 ゲノム多型解析に基づく現代日本人の地域差
３．学会等名 第73回日本人類学会大会
４．発表年 2019年

１．発表者名 久我明穂
２．発表標題 主成分分析を用いた混血率の推定
３．学会等名 第73回日本人類学会大会
４．発表年 2019年

１．発表者名 勝村啓史
２．発表標題 メダカをモデルとした新奇性追求行動に関わるヒトゲノム領域探索に向け て
３．学会等名 出ユーラシア第二回全体会議
４．発表年 2019年

１．発表者名 田辺明生
２．発表標題 Democracy and Development in Tension: Predicament of Politico-economic Stalemate among the Dongria Khonds in Odisha, India,
３．学会等名 国際会議名：Globalizing Life World and Transformation of Political Sphere 主催：Institute for Development and Communication (IDC) 場所：Chandigarh, India（招待講演）（招待講演）（国際学会）
４．発表年 2019年

１．発表者名 吉永大祐、田中幹人
２．発表標題 ゲノム編集の社会応用に対する公衆の態度と意見: ウェブニュースのコメントの内容分析から
３．学会等名 2019年度社会情報学会年会
４．発表年 2019年

１．発表者名 徳永勝士
２．発表標題 Interaction between Host and Pathogen Genome Variations in Tuberculosis and Hepatitis B
３．学会等名 シンポジウム：微生物ゲノムと宿主ゲノムの相互連関、第92回日本細菌学会
４．発表年 2019年

１．発表者名 徳永勝士
２．発表標題 多因子疾患における大規模ゲノム解析の意義
３．学会等名 日本学術会議・東京大学ゲノム医科学研究機構
４．発表年 2019年

１．発表者名 徳永勝士
２．発表標題 ゲノム指針改正の現状紹介およびバイオバンクの重要性
３．学会等名 第３回ヒトゲノム研究倫理を考える会：今、ゲノム指針改正について考える
４．発表年 2019年

１．発表者名 Tokunaga K
２．発表標題 Genome-wide studies on immune-mediated complex diseases
３．学会等名 The 10th Taiwan Biosignatures Workshop
４．発表年 2019年

１．発表者名 Yasuko Takezawa
２．発表標題 Jews, ‘Gypsies,’ and Kawaramono in Pre-modern Times: Some Parallel Patterns of Racialization?
３．学会等名 ジプシー・ロア学会年次大会（国際学会）
４．発表年 2018年

１．発表者名 Yasuko Takezawa
２．発表標題 The Constructs of Blood, Color, and Race in Japan
３．学会等名 第113回アメリカ社会学会年次大会（国際学会）
４．発表年 2018年

１．発表者名 竹沢泰子
２．発表標題 差異と差別の（不）可視化をめぐって
３．学会等名 人種神話を解体する-可視性と不可視性のはざまでPart 1 出版記念連続セミナー
４．発表年 2018年

１．発表者名 竹沢泰子
２．発表標題 新人種主義の現在・座談会
３．学会等名 人種神話を解体する-;可視性と不可視性のはざまでPart 1 出版記念連続セミナー
４．発表年 2018年

１．発表者名 竹沢泰子
２．発表標題 河原者・ユダヤ人・「ジプシー」-中世の「特権」神話
３．学会等名 新・可視性と不可視性のはざまでpart 2：アジアとヨーロッパの被差別民
４．発表年 2018年

１．発表者名 竹沢泰子
２．発表標題 趣旨説明、戦後とポスト9/11～井上葉子の作品に見るメージャー／マイナー・トランスナショナリズム
３．学会等名 国際シンポジウム　環太平洋の日系ディアスポラ・アート
４．発表年 2018年

１．発表者名 徳永勝士
２．発表標題 個人情報保護法改正に対応した研究倫理指針改正について：ゲノム解析研究の視点から
３．学会等名 放射線影響研究所ワークショップ
４．発表年 2018年

１．発表者名 徳永勝士
２．発表標題 疾患関連遺伝子のゲノム全域探索：HLAへの回帰
３．学会等名 第72回日本人類学会大会　公開シンポジウム2・DNAからみたヒトの進化
４．発表年 2018年

１．発表者名 K. Koganebuchi, T. Gakuhari, H. Takeshima, S. Kasagi, T. Sato, A. Tajima, H. Shibata, M. Ogawa, H. Oota
２．発表標題 A new targeted-capture method using bacteria artificial chromosome (BAC) as baits exclusively developed for sequencing relatively large loci of ancient DNA(Poster)
３．学会等名 The Society for Molecular Biolgy and Evolution, Annual Meeting（国際学会）
４．発表年 2018年

１．発表者名 R.W. Schmidt, D. Fernandes, J. Karsten, T. Harper, G. Madden, S. Ledogar, M. Sokhatsky, H. Oota, R. Pinhasi
２．発表標題 The Transition to Farming in Eneolithic (Copper Age) Ukraine was Largely Driven by Population Replacement(Poster)
３．学会等名 The Society for Molecular Biology and Evolution, Annual Meeting（国際学会）
４．発表年 2018年

１．発表者名 T. Gakuhari, M. Sikora, S. Rasmussen, M. Allentoft, T. Sato, T. Kornrliussen, M. Yonda, H. Ishida, Y. Yamada, H. Shibata, S. Nakagome, E. Willerslev, H. Oota
２．発表標題 Whole genome analysis of the Jomon remain reveals deep ineage of East Eurasian populations
３．学会等名 The Society for Molecular Biology and Evolution, Annual Meeting（国際学会）
４．発表年 2018年

１．発表者名 H. Matsumae, P.E. Savage, B. Bickel, T.E. Currie, T. Sato, A. Tajima, M. Stoneking, K.K. Shimizu, M. Gillan, S. Brown, H. Oota
２．発表標題 complex human histories of Northeast Asia revealed by correlaions between genes, language, and Mmusi
３．学会等名 The Society for Molecular Biology and Evolution, Annual Meeting（国際学会）
４．発表年 2018年

１．発表者名 T. Sato, N. Adachi, R. Kimura, M. Yoneda, H. Oota, A. Tajima, A. Toyoda, H. Matsumae,K. Koganebuchi, K.K. Shimizu, T. Hanihara, A. Weber, H. Kato, H. Ishida
２．発表標題 Human population history in the southwestern coastal region of Sea of Okhotsk, inferred from ancient genome analysis
３．学会等名 The Society for Molecular Biology and Evolution, Annual Meeting（国際学会）
４．発表年 2018年

１．発表者名 Matsudaira, T. Ishida, W. Settheetham-Ishida, P. Duangchan, S. Pookajorn, D. Tiwawech, N. Nishida, P. Verdu and H. Oota
２．発表標題 Genome-wide SNP analyses of ethnic groups in Thailand(Poster)
３．学会等名 PaleoAsia2018 The International Workshop（国際学会）
４．発表年 2018年

１．発表者名 R. Sawafuji, R. Kimura, H. Oota and H. Ishida
２．発表標題 Human genetic diversity and peopling history in East and Southeast Asia(Poster)
３．学会等名 PaleoAsia2018 The International Workshop（国際学会）
４．発表年 2018年

１．発表者名 Hiroki Oota
２．発表標題 The Jomon genome and migration of anatomical modern humans to East Asia in the joint session. ‘The expansion of anatomical modern humans and the spread of Japonic language family.’
３．学会等名 Transeurasian millets and beans, language and genes（国際学会）
４．発表年 2019年

１．発表者名 太田博樹
２．発表標題 ホモ・サピエンスの東アジアへの拡散に関する南北２経路モデルの検証
３．学会等名 パレオアジア文化学プロジェクト　計画研究B02 2018年度班会議（東京）
４．発表年 2018年

１．発表者名 太田博樹
２．発表標題 遺伝人類学からみた東アジア・日本列島への人類の拡散
３．学会等名 日本旧石器学会第16回大会シンポジウム「日本列島への人類拡散と後期旧石器時代の成立を考える」
４．発表年 2018年

１．発表者名 太田博樹
２．発表標題 古代ゲノムが解き明かすホモ・サピエンスの拡散
３．学会等名 日本人類遺伝学会第63回大会
４．発表年 2018年

１．発表者名 4.覚張隆史、中込滋樹、Martin Sikora, Simon Rasmussen, Morten Allentoft, 佐藤丈寛、Thorfinn Korneliussen, Blánaid Ní Chuinneagáin, 松前ひろみ、小金渕佳江、Ryan Schmidt, 茂原信生、米田穣、木村亮介、石田肇、増山禎之、山田康弘、田島敦、柴田弘紀、豊田敦、埴原恒彦、Eske Willerslev, 太田博樹
２．発表標題 伊川津・縄文人ゲノムからみた東アジア人類集団の形成史
３．学会等名 第72回日本人類学会大会（三島）
４．発表年 2018年

１．発表者名 太田博樹
２．発表標題 ゲノム情報にもとづく人類学と文系科目
３．学会等名 第72回日本人類学会大会（三島）
４．発表年 2018年

１．発表者名 5.K. Wakabayashi, M. Uno, M. Kumagai, R. Sawafuji, T. Gakuhari, K. Inada, M. Ajimoto, M. Umezaki, M. Yoneda, M. Ogawa, H. Oota
２．発表標題 A technical study of DNA extraction and analysis from feces and coprolites
３．学会等名 第72回日本人類学会大会（三島）
４．発表年 2018年

１．発表者名 6.松平一成、石田貴文、Wannapa Settheetham-Ishida、Phaiboon Duangchan、Surin Pookajorn、Danai Tiwawech、西田奈央、Paul Verdu、太田博樹
２．発表標題 タイの少数民族のゲノム網羅的SNPデータ解析
３．学会等名 第6回研究大会パレオアジア文化史学（東京）
４．発表年 2018年

１．発表者名 Yasuko Takezawa
２．発表標題 Rebuilding and Redefining Kobe: the collaboration between governmental and non-governmental organizations after the 1995 earthquake
３．学会等名 Harvard-UTokyo Conference: Asian Cities: Hubs of Interaction, Tradition and Transformation（招待講演）（招待講演）
４．発表年 2017年

１．発表者名 Yasuko Takezawa
２．発表標題 A TransPacific Model of Racial Mixing and Mixed Race Representations
３．学会等名 Critical Mixed Race Studies Conference（国際学会）
４．発表年 2017年

１．発表者名 Yasuko Takezawa
２．発表標題 Hapa Japan Roundtable: ‘Curating Transnational Mixed Race Scholarship
３．学会等名 Critical Mixed Race Studies Conference（招待講演）
４．発表年 2017年

１．発表者名 Yasuko Takezawa
２．発表標題 A Parallel Pattern of Racialization?: Jews, “Gypsies,” and Kawaramono
３．学会等名 How do Social Sciences address Race?　フランス国立社会科学高等研究院EHESS（招待講演）（招待講演）
４．発表年 2017年

１．発表者名 竹沢泰子
２．発表標題 国際理解白熱教室　アメリカの人種問題と日本社会
３．学会等名 京都府国際センター（招待講演）（招待講演）
４．発表年 2017年

１．発表者名 Yasuko Takezawa
２．発表標題 Racializing ‘Invisible’ Minorities in Japan: A Step Beyond the Trans-Atlantic Paradigm
３．学会等名 第112回アメリカ社会学会年次大会（国際学会）
４．発表年 2017年

１．発表者名 Yasuko Takezawa
２．発表標題 When Scholars from peripheries within the First World do fieldwork in the United States
３．学会等名 2017年IUAES国際人類学民族学会議（国際学会）
４．発表年 2017年

１．発表者名 Yasuko Takezawa
２．発表標題 Visibilities and Invisibilities: Some Experimental Framework
３．学会等名 第116回アメリカ人類学会年次大会（国際学会）
４．発表年 2017年

１．発表者名 Yasuko Taekzawa
２．発表標題 Roundtable: Curating Transnational Mixed Race Scholarship
３．学会等名 Critical Mixed Race Studies
４．発表年 2017年

１．発表者名 竹沢泰子
２．発表標題 「ポストレイシャル」アメリカにおける「人種」部会　コメント
３．学会等名 日本アメリカ学会
４．発表年 2016年

１．発表者名 Yasuko takezawa
２．発表標題 A TransPacific Model of Racial Mixing and Mixed Race Representations
３．学会等名 Critical Mixed Race Studies
４．発表年 2017年

１．発表者名 Tabane, A.
２．発表標題 Recent Socio-economic Changes in Niyamgiri Region in Odisha, India: With Special Attention to Scheduled Tribes and Scheduled Castes
３．学会等名 International Workshop“New Stage of South Asian Agriculture and Rural Economies
４．発表年 2018年

１．発表者名 田辺明生
２．発表標題 インド文明とアフロユーラシア　エジプトとの比較
３．学会等名 講演会「エジプトと“環ユーラシア文明”」
４．発表年 2018年

１．発表者名 田辺明生
２．発表標題 多様性社会としてのインド－南アジア型発展経路を考える
３．学会等名 シンポジウム「インドの価値観と社会構造　日本と西洋の比較研究」
４．発表年 2018年

１．発表者名 田辺明生
２．発表標題 部族民と不可触民　インドにおける差別の諸形態
３．学会等名 人文研アカデミー2018「人種神話を解体する　可視性と不可視性のはざまで（In）Visibility」
４．発表年 2018年

１．発表者名 田辺明生
２．発表標題 インド史への視座　多様性の統合
３．学会等名 川崎市民アカデミー　インド史
４．発表年 2018年

１．発表者名 Tanabe, A.
２．発表標題 Anti-Racism and Spiritual Universalism: Connection and Diversion of Transnational Nationalisms of Japan and India in the Late Nineteenth and Early Twentieth Centuries
３．学会等名 International Seminar “Race and Racism（国際学会）
４．発表年 2018年

１．発表者名 Tanabe, A.
２．発表標題 Is there a South Asian path of development? Comparative attempts on shapes of Asia
３．学会等名 Shaping Asia/s Connectivities, Comparisons, Collaborations（国際学会）
４．発表年 2018年

１．発表者名 Tanabe, A.
２．発表標題 Genealogies of ‘Paika Rebellion’: Heterogeneities and Linkages
３．学会等名 Paika Rebellion: A Forgotten Era of Indian Freedom Struggle（招待講演）（国際学会）
４．発表年 2017年

１．発表者名 Tanabe, A.
２．発表標題 Vernacular democracy and politics of relationships: A subalternate perspective on contemporary India
３．学会等名 -（国際学会）
４．発表年 2017年

１．発表者名 Tanabe, A.
２．発表標題 Locating Odisha and Japan in the World
３．学会等名 Utkal University（国際学会）
４．発表年 2017年

１．発表者名 田辺明生
２．発表標題 近代民主主義の基盤としての霊性と異端
３．学会等名 日本学術会議公開シンポジウム「知の受容と創造　思想間の葛藤と対話をめぐって」
４．発表年 2016年

１．発表者名 田辺明生
２．発表標題 現代インドのダイナミズム　多様性社会の挑戦
３．学会等名 岡山県立高梁高等学校
４．発表年 2016年

１．発表者名 Tanabe, A.
２．発表標題 Various Forms of Money-use in Early Modern India: Money that Connects Diversities in Market, Society and Polity
３．学会等名 The Variety of Exchange and the Character of Money（国際学会）
４．発表年 2016年

１．発表者名 Tanabe, A.
２．発表標題 ‘Being’, the Spiritual Source of Human Creativity: Affirmation of Diversity through Ontological Equality in India
３．学会等名 International Symposium, “Being Now: Community, Humanity and the Sacred: Platform for a New Economics（国際学会）
４．発表年 2016年

１．発表者名 田辺明生
２．発表標題 日印交流の未来 言語文化の多様性と普遍性
３．学会等名 大学国語国文学会６０周年記念大会
４．発表年 2016年

〔図書〕　計30件

１．著者名 竹沢泰子	４．発行年 2023年
２．出版社 名古屋大学出版会	５．総ページ数 516
３．書名 アメリカの人種主義：カテゴリー／アイデンティティの形成と転換	

１．著者名 Yasuko Takezawa and Akio Tanabe eds.	４．発行年 2023年
２．出版社 Routledge	５．総ページ数 265
３．書名 Race and Migration in the Transpacific	

１．著者名 竹沢泰子、ジャン＝フレデリック・ショブ編	４．発行年 2022年
２．出版社 京都大学学術出版会	５．総ページ数 422
３．書名 人種主義と反人種主義：越境と転換	

1．著者名 Yasuko Takezawa	4．発行年 2022年
2．出版社 Wenner-Gren Foundation	5．総ページ数 -
3．書名 "Social Issues and the Role of Anthropology in Contemporary Japan," in Gustavo Lins Ribeiro (ed.), Pathways to Anthropological Futures	

1．著者名 Yasuko Takezawa	4．発行年 2022年
2．出版社 Routledge	5．総ページ数 416
3．書名 "Japan's Modernization and Self Construction between White and Yellow," in Shona Hunter and Christi van der Westhuizen (eds.), The Routledge Handbook of Critical Studies in Whiteness (pp. 160-170)	

1．著者名 Akio Tanabe	4．発行年 2021年
2．出版社 Routledge	5．総ページ数 364
3．書名 Caste and Equality in India: A Historical Anthropology of Diverse Society and Vernacular Democracy	

1．著者名 竹沢泰子	4．発行年 2021年
2．出版社 東京大学出版会	5．総ページ数 296
3．書名 「人種と人種差別：自然人類学と文化人類学の対話から」井原泰雄・梅崎昌裕・米田穣編『人間の本質にせまる科学：自然人類学の挑戦』（pp. 237-250）	

1．著者名 田辺明生・竹沢泰子・成田龍一編	4．発行年 2020年
2．出版社 京都大学学術出版会	5．総ページ数 422
3．書名 『環太平洋地域の移動と人種―統治から管理へ、遭遇から連帯へ』	

1．著者名 竹沢泰子	4．発行年 2020年
2．出版社 明石書店	5．総ページ数 296
3．書名 「「人種」とヒトの多様性 学校でのまなびのために」中山京子・東優也・太田満・森茂岳雄編著『「人種」「民族」をどう教えるか 創られた概念の解体をめざして』（pp. 22-30）	

1．著者名 Yasuko Takezawa and Gary Y. Okihiro eds.	4．発行年 2020年
2．出版社 University of Hawaii Press	5．総ページ数 456
3．書名 Trans-Pacific Japanese American Studies: Conversations on Race and Racializations （ペーパーバック版）	

1．著者名 Yasuko Takezawa and Laura Kina eds.	4．発行年 2020年
2．出版社 Brill	5．総ページ数 212
3．書名 Special Issue: Trans-Pacific Minor Visions in Japanese Diasporic Art. Asian Diasporic Visual Cultures and the Americans	

１．著者名 小森陽一　成田龍一	４．発行年 2020年
２．出版社 集英社	５．総ページ数 334
３．書名 「井上ひさし」を読む	

１．著者名 Katja Valaskivi, Anna Rantasila, Mikihito Tanaka, Risto Kunelius	４．発行年 2019年
２．出版社 Palgrave	５．総ページ数 156
３．書名 Traces of Fukushima: Global Events, Networked Media and Circulating Emotions	

１．著者名 Tsunoda T, Tanaka T, and Nakamura Y eds. (徳永勝士分担執筆)	４．発行年 2019年
２．出版社 Springer	５．総ページ数 209
３．書名 Genome-Wide Association Studies	

１．著者名 成田龍一	４．発行年 2019年
２．出版社 三人社	５．総ページ数 603
３．書名 「近代のなかの「戦後」／「戦後」のなかの明治」坪井秀人編『戦後日本文化再考』	

１．著者名 田辺明生	４．発行年 2019年
２．出版社 ナカニシヤ出版	５．総ページ数 370
３．書名 「グローバル市民社会　方法としての主体、可能性としての他者」山室信一・岡田暁生・小関隆・藤原辰史編『われわれはどんな「世界」を生きているのか　来るべき人文学のために』	

１．著者名 田辺明生	４．発行年 2019年
２．出版社 ナカニシヤ出版	５．総ページ数 217
３．書名 「南アジアの歴史人類学」山室信一編『人文学宣言』	

１．著者名 田辺明生	４．発行年 2019年
２．出版社 山川出版社	５．総ページ数 468
３．書名 「独立後インドの社会と文化」長崎暢子編『世界歴史大系　南アジア史　近代・現代４』	

１．著者名 田辺明生	４．発行年 2018年
２．出版社 京都大学学術出版会	５．総ページ数 646
３．書名 「生き延びてあることの了解不能性から、他者とのつながりの再構築へ　インド・パキスタン分離独立時の暴力の記憶と日常生活」田中雅一・松嶋健編『トラウマを生きる』〈トラウマ研究１〉	

1．著者名 田辺明生	4．発行年 2018年
2．出版社 法藏館	5．総ページ数 282
3．書名 「幸福追求の支えとしてのダルマ　秩序の再構築過程に注目して」嵩満也編『変貌と伝統の現代インド　アンベードカルと再定義されるダルマ』	

1．著者名 田辺明生	4．発行年 2016年
2．出版社 岩波書店	5．総ページ数 264
3．書名 「宗教性からみたインド　存在の平等性にもとづく多様性の肯定」大澤真幸編『宗教とこころの新時代』	

1．著者名 竹沢泰子	4．発行年 2018年
2．出版社 丸善出版	5．総ページ数 960
3．書名 「センサス」『アメリカ文化事典』	

1．著者名 竹沢泰子	4．発行年 2018年
2．出版社 丸善出版	5．総ページ数 960
3．書名 「多文化主義」『アメリカ文化事典』	

１．著者名 太田博樹	４．発行年 2018年
２．出版社 ちくま新書（筑摩書房）	５．総ページ数 322
３．書名 遺伝人類学入門―チンギス・ハンのDNAは何を語るか	

１．著者名 田辺明生	４．発行年 2018年
２．出版社 山川出版社	５．総ページ数 632
３．書名 「第９章　独立後のインドの社会と文化」、長崎暢子編『世界歴史大系　南アジア３　近代』	

１．著者名 竹沢泰子	４．発行年 2017年
２．出版社 東京大学出版会	５．総ページ数 320
３．書名 新装版　日系アメリカ人のエスニシティ　強制収容と補償運動による変遷	

１．著者名 Yasuko Takezawa and Gary Y. Okihiro, eds.	４．発行年 2016年
２．出版社 University of Hawai'i Press	５．総ページ数 444
３．書名 Trans-Pacific Japanese American Studies: Conversations on Race and Racializations	

１．著者名 斉藤綾子・竹沢泰子編	４．発行年 2016年
２．出版社 東京大学出版会	５．総ページ数 296
３．書名 人種神話を解体する第1巻　可視性と不可視性のはざまで	

１．著者名 坂野徹・竹沢泰子編	４．発行年 2016年
２．出版社 東京大学出版会	５．総ページ数 344
３．書名 人種神話を解体する第2巻　科学と社会の知	

１．著者名 川島浩平・竹沢泰子編	４．発行年 2016年
２．出版社 東京大学出版会	５．総ページ数 384
３．書名 人種神話を解体する第3巻　「血」の政治学を越えて	

〔産業財産権〕

〔その他〕

専用ホームページ：本科研費による共同研究に関する情報は、研究代表者が2023年3月に退職するまでは、京都大学人文科学研究所のサーバーを用いて、「人種化のプロセスとメカニズムに関する複合的研究」として公開していた。 https://race.zinbun.kyoto-u.ac.jp/ja/
定年退職に伴い、現在は規模を縮小して、https://yasukotakezawa.com/joint_research_jaに日本語及び英語で掲載している。なお同ページの最後に、科研費番号等の情報も記載している。

また、以下の各誌・Webサイト等に本科研費に関わる記事・コメント等が掲載された。
2023年1月4日　「新年特集号　人種も社会的に作られた　分類したがる私たちは差別をなくせるのか」『朝日新聞』
2022年4月20日　日系アメリカ人の経験に関するインタビュー記事　『京都新聞』
2022年3月8日　「『人種』は見えるものか」『朝日新聞』
2021年8月31日　「来日外国人の子 進学に壁 大学入試枠 国立は１校のみ」『日経新聞』
2021年2月14日　「『ドレッドヘアーは薬物持つ人多い』ミックスの男性への職質、『差別的で違法』と波紋」『ハフポスト』
2020年9月9日　「外国人生徒の高校進学率60%台にとどまる　進学支援で「多文化共生」へ！」ベネッセ教育情報サイト
2020年8月22日　NHK ETV特集「パンデミックが変える世界～ブラック・ライブズ・マターの衝撃～」（協力者として記載）
2020年7月7日　「そこが聞きたい　米黒人暴行死の背景　旧居住区政策、格差なお」『毎日新聞』
2020年6月19日　「Black Lives Matterが意味するもの」NHKオンライン
2020年6月18日　「肌の色で失う命　米の構造問題」『朝日新聞』
2020年6月18日京都紙面／24日東京紙面　「「ブラック・ライブズ・マター」肌の色が生死分けるアメリカの構造」『朝日新聞』
2019年8月28日　「根強い人種神話　差別乗り越える英知」『朝日新聞』
2019年4月27日　Manzanar pilgrimage takes on broad themes of democracy, civil rights. Los Angeles Times
2018年2月17日　「体の特徴笑いにしないで」『中日こどもウィークリー』

６．研究組織

	氏名 （ローマ字氏名） （研究者番号）	所属研究機関・部局・職 （機関番号）	備考
研究分担者	田辺　明生 (TANABE Akio) (30262215)	東京大学・大学院総合文化研究科・教授 (12601)	
研究分担者	徳永　勝士 (TOKUNAGA Katsushi) (40163977)	国立研究開発法人国立国際医療研究センター・その他部局等・ゲノム医科学プロジェクト　戸山プロジェクト長 (82610)	
研究分担者	太田　博樹 (OOTA Hiroki) (40401228)	東京大学・大学院理学系研究科（理学部）・教授 (12601)	
研究分担者	成田　龍一 (NARITA Ryuichi) (60189214)	日本女子大学・人間社会学部・研究員 (32670)	
研究分担者	田中　幹人 (TANAKA Mikihito) (70453975)	早稲田大学・政治経済学術院・教授 (32689)	

７．科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕　計14件

国際研究集会 Intersecting the Global with the Local: Activism and American Minorities	開催年 2016年～2016年
国際研究集会 国際シンポジウム『新・可視性と不可視性のはざまで part1』	開催年 2018年～2018年
国際研究集会 国際シンポジウム『新・可視性と不可視性のはざまでpart2』	開催年 2018年～2018年
国際研究集会 国際シンポジウム『人種主義・反人種主義の越境と転換』	開催年 2019年～2019年
国際研究集会 出版記念国際シンポジウム『環太平洋地域の移動と人種』	開催年 2020年～2020年

国際研究集会 合評会（国際）『環太平洋地域の移動と人種 統治から管理へ、遭遇から連帯へ』　合評会	開催年 2020年～2020年
国際研究集会 緊急リレートーク：ブラック・ライブズ・マター運動の背景と課題	開催年 2020年～2020年
国際研究集会 日仏共同研究　出版記念シンポジウム『人種主義と反人種主義～越境と転換』	開催年 2022年～2022年
国際研究集会 講演会　ローラ・キナのアートとトーク「ウチナーンチュのルーツを辿って」	開催年 2022年～2022年
国際研究集会 国際ワークショップ「遺伝学・DTC・社会的意味」	開催年 2017年～2019年
国際研究集会 国際シンポジウム「Trans-Pacific Japanese Diaspora Art: Encounters and Envisions of Minor-Transnationalism」	開催年 2018年～2018年
国際研究集会 第116回アメリカ人類学会年次大会企画部会Visibilities and Invisibilities: Some Experimental Frameworks	開催年 2017年～2017年
国際研究集会 アメリカ社会学会年次大会企画部会Race, Racism, and Skin Color,	開催年 2018年～2018年
国際研究集会 国際ワークショップフランス国立社会科学高等研究院と共催「Racism and Antiracism」	開催年 2018年～2018年

８．本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関			
フランス	TEPSIS	EHESS		
米国	University of California, Santa Barbara			
フランス	TEPSIS	EHESS		
カナダ	University of Alberta			
米国	University of Illinoi			
インド	Delhi University			
アイスランド	UNIVERSITY OF ICELAND			
アメリカ	カリフォルニア州立大学サンタバーバラ校	コロンビア大学		
フランス	社会科学高等研究院			
韓国	慶尚大学			